

3 と畜場搬入牛における牛白血病の発生状況

○^ゲ下^シ司^{タカ}高^{ヒロ}弘（豊橋市食肉衛生検査所）
辻井隆宏（東部家畜保健衛生所）
葛岡功弥子（豊橋市食肉衛生検査所）
安達有紀（同 上）
本島雅昭（同 上）
細井美博（同 上）

1 はじめに：近年、牛白血病の発生頭数は全国的に増加傾向にあり、当所においてもここ数年で急激に増加している。今回我々は、牛白血病の発生状況、剖検所見、病理組織学的所見、抗体保有状況等の調査結果をもとに比較分析したのでその概要を報告する。

【材料及び方法】1)牛白血病発生状況:平成14年4月から平成21年12月までに管内Aと畜場に搬入された牛88,157頭を対象とし、牛白血病の発生状況について品種、性別、月齢、用途別に比較分析した。2)臓器及びリンパ節別腫瘍発生状況:同期間内に牛白血病と診断した牛について調査を実施した。3)BLV抗体保有状況:平成20年4月から平成21年9月までに、牛白血病と診断した牛31頭について、ゲル内沈降反応法(牛白血病診断用抗原「北研」)及び受身赤血球凝集反応法(牛白血病抗体アッセイキット「日生研」)によるBLV抗体保有状況調査を行った。判定は測定キットの使用法に従い、ゲル内沈降反応法では沈降線を確認したものを陽性とし、受身赤血球凝集反応では定性試験、定量試験、阻止試験を行い、抗体価16倍以上のものを陽性とした。

2 結果及び考察：1)搬入牛88,157頭中58頭が牛白血病と診断され、全部廃棄処分された(発生率0.07%)。年度別にみると、平成14年度に0.02%であった発生率は、20年度には0.11%、今年度は12月末現在までに0.25%となっており、ここ数年で急激に増加していることが示された。品種別の発生率は、ホルスタイン種が0.12%、交雑種が0.03%、黒毛和種が0.12%と、ホルスタイン種及び黒毛和種で高値を示した。性別の発生率では特に差を認めなかった。月齢別では、36ヶ月以降から徐々に発生率が増加し、108～119ヶ月齢で3.45%となり、月齢と相関して発生率が増加することが示された。また用途別では、乳用牛が1.36%、肉用牛が0.04%となり、飼養期間の長い乳用牛で発生率が高値を示した。2)臓器別腫瘍発生状況では、心臓が80%で最も高く、続いて肝臓、脾臓で高い発生率を示した。リンパ節別にみると、躯幹リンパ節はいずれも高値を示し、付属リンパ節では肺、縦隔、肝リンパ節で高い発生率を示した。3)BLV抗体保有状況は、93.3%(28/30頭)が抗体陽性となり、およそ9割強の牛がBLV感染により発症したことが示された。今後も調査を継続し、結果を関係各機関へ還元することで、清浄化へ向けた取り組みの一助としたい。